

北魚沼あぜ道情報

2011年
7月号
JA北魚沼

梅雨の魚沼



じめじめじめじめ…。
梅雨の魚沼は終始サウナ状態。
気合いをいれ田んぼに向かいます。



棚田の傾斜面の草刈は重労働です…。

主婦の大敵！梅雨の時期到来です。
魚沼市は周囲が山に囲まれた盆地であり、夏は記録的な気温を、冬は記録的な積雪をと、四季の特徴がはっきりしているといえれば聞こえはいいんですが、ちょっと極端かなとさえ感じるこの頃です。
が、そんな事も言っていられません。人間が暑ければ稲も暑い、喉が乾けば稲も乾いている、同じ生き物の稲たちは私たちが手間暇かければかけるほど、その期待に応えてくれます。
一度しか実らない稲穂。年に一度の真剣勝負は小手先だけでは通用せず、常に気象情報などの情報収集に努め、早めにキャッチして稲たちがストレスを貯めないように育てます。当JAでは、いち早く情報を伝達するため、農家の皆さんにメール配信による情報提供を開始しました。

「お！メールだ！茎数を確認して早めに中干ししろだつて！さて準備するかな！」
「お！明日は大雨だつて！稲が溺れるから田んぼの水を見てくるぞ！」
例年だと経験年数の浅いうちの父ちゃんは、朝、雨が降つてるのを見て慌てて田んぼに飛んで行ったり、「今の時期は草刈が重要だ！」など、あーだこーだと口やかましく助言するじいちゃんを疎ましそうにしていました。今はメールでいち早く情報をキャッチしている余裕から、じいちゃんの指導に真剣に耳を傾けている父ちゃんでもあります。（稲作指導担当の職員に感謝です・・・。）
7月は水管理がとて重要な時期。中干しして十分に酸素を吸い込んだ田んぼに、気候を見ながら水を入れたり抜いたりして稲穂の赤ちゃんが出来るまでの間、大事に大事に育てます。「米」を作るため昔の人は八十八の手間をかけたそうですが、今も昔ながらの手法が見直され、化学肥料などに極力頼らない方法で米作りに励んでいます。
さてこの時期、日中は蒸し暑さとの戦いではありますが、夜は爽やかな風が疲れた身体を癒してくれます。誘われるように外を散歩し涼んでいると、蛍がときおり光を放ち歓迎してくれます。
都会のような華やかなネオン街も憧れますが、蛍のひかりに癒されるのもいいもんですよ。
(JA北魚沼 佐藤)



田んぼと新人の成長日記

5月下旬に行われた田植えから、苗はすくすくと育っています！

私が成長日記をお伝えしているこの田んぼ、実は機械ではなく手作業で田植えされたものなのですが、その時1箇所植えた苗の本数は約3本。それが1ヶ月経つ間に葉の数を増やし、茎の数を増やして3倍ほどのボリュームになりました。この植えてから1ヶ月2ヶ月の間が一番成長する時です。おそらく今月の終わりには、稲穂の赤ちゃんが茎の中にてき始めるでしょう。なんて成長が早い！

また、この時期の田んぼは沢山の生き物がいてとつてもぎやかです。水棲昆虫やおたまじやくし、あぜ道ではよく蛇に出くわします！これから夏本番になると出会う面々も随分と変わってきます。さて、いったい来月はどんな表情の田んぼになっているのでしょうか？
(野村)



粳米と糯米（うるち米ともち米）

「ご飯とお餅、どちらもお米から出来ているのにどうしてこんなに粘りが違うのでしょうか？それはお米の中のデンプン構成の違いによるものです。
粳米のデンプンはアミロース（あまり粘らない）とアミロペクチン（よく粘る）が1：4の割合であるのに対し、糯米はほぼアミロペクチンのみで出来ています。古米に糯米を混ぜて炊くとおいしいのは、糯米のアミロペクチンがバサバサの古米の粘り気を補っているからなのです。」